

(様式1-表)

令和5年度 特色ある学校づくり推進事業 計画書

学校番号	14	豊田市立 寿恵野小 学校	代表	岸野 亨
------	----	--------------	----	------

※分野【a：国際交流・国際理解、b：地域連携、c：自然体験、d：環境教育、e：学力向上、f：交流体験、g：福祉・ボランティア、h：伝統文化、i：その他（ ）】から選ぶ。

テーマ	共に学び合い、共に育ち合う すえのっ子の育成	分野	b	地域連携
サブテーマ	地域に開かれた学校を目指し、児童たちの学習への支援活動を充実させる。	i(その他)は分野を右欄に記入		
学校づくりの視点（ねらい）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域講師の力を生かし、学校の諸活動の中に取り入れ、活気ある学校づくりを図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・本校は読書指導に力を入れており、国語の授業及び読書指導の講師として地域講師を活用し、本好きな児童を育てることをねらいとしている。 ・学級担任が中心となって取り組む外国語活動で地域講師をお願いし、コミュニケーション能力の素地を養うための指導を取り入れ、児童の外国語学習への関心を高めることをねらいとしている。 ・本校のビオトープは、総合的な学習の時間や生活科の学習における教材として児童の学習を支えている。そんな環境を生かして、学習を深めるためにも地域講師を招聘している。 ・農業体験・地域探検等で地域の方とふれあうことで地域のよさに気づき、地域を愛する児童を育てていくことをねらいとしている。 ・食育の充実と体力づくりを推進することをねらいとしている。野菜や米・大豆を栽培・収穫・調理する活動を通して、食や食文化への関心を深める。また、休み時間や教科体育の時間を利用し、基礎体力の向上を図る運動を取り入れ、実践する。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、学び合いを取り入れた授業を研究する。 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの研究の成果の継続・発展を図ることで、児童相互の学び合いを軸にした学習活動を積み上げていく。 			
活動内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 読書指導を通しての利用促進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・児童の年間目標50冊の読書活動の支援として、図書館の環境整備を依頼する。 ・国語の授業への支援として、資料の収集と提供を依頼する。 ・月1回程度の、図書ボランティアによる読み聞かせ活動を依頼する。 2 外国語ボランティアの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・担任の授業のお手伝いとして、地域の方に年間25回の外国語活動の時間に、外国語ボランティアを依頼する。 3 総合的な学習の時間・社会科・生活科・食育指導で地域講師の招聘 <ul style="list-style-type: none"> ＜計画＞ 4月 各学年で地域講師招聘の計画を立てる。 5月～11月 米作り 大豆作り 野菜作り その調理法等の実践指導 1月 米作りでお世話をされた方へ感謝する取組 随時 老人クラブ・地域講師による、郷土の歴史等の講習会 随時 “ 昔遊びや季節行事の伝承 随時 地域の特色や、そこで働く人たちの様子を知るための、地域探検等の実施 4 学び合いを取り入れた授業を研究する為に講師を招聘 <ul style="list-style-type: none"> ・授業実践を講師に参観していただき、指導を受ける。 			
補助員配置	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館司書 週1日 ・校内整備員 週2日 ・心の相談員 週4日 			
実績・期待される効果	<ol style="list-style-type: none"> 1 図書館司書の配置により、本好きな児童が増加したり、調べ学習を進める上で適切な資料の収集が可能になったりすることで、学習への深まりが期待できる。 2 外国語ボランティアが、外国語指導に慣れない担任を発音面等で支援することで、外国語好きな児童を育てることにつながる。 3 地域講師との交流を通して、地域の人・もの・場所を愛する気持ちが高まり、地域への愛着がより深まる。食や食文化について興味・関心を高めることができる。 4 学び合いを軸に、分かる・できる授業を創意工夫することで、自信をもち、自己実現に向けて主体的に判断し、行動できる児童が育つ。 			
検証方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童の年間の図書貸出冊数を集約することで、児童の読書量の推移が把握できる。 2 授業での評価カードにより、ボランティアの方の支援が児童にとってどのように役立っているかをつかむことができる。 3 児童による総合的な学習の時間や生活科のまとめ発表などにより、活動への成果を発表したり、地域講師に対する感謝の手紙などにより、児童の学習の成果をつかむことができる。 4 授業での児童の自己評価や学び合いの授業記録等から、児童が主体的に学習に取り組み、学び合いながら学習内容を理解できる研究の成果を検証することができる。 			